



久遠塾は、2018年6月18日に白糠高校魅力化プロジェクトの一環として開塾。塾長と講師の2人体制で運営してきたが、今年の4月1日に新たな講師として大門桃さんが加わった。これまで高校で国語の常勤講師を務めていた大門さん。今年、教員の正規職員になることができなかったことをきっかけに自身を見つめ直し、一旦教壇から離れることとした。「教員を辞めたくはなかったのですが、自分にはこれといった趣味もないし、海外へ行ったとかいう特別な経験もない。生徒たちに自

分の経験を通して語れることが何もないというのが、ずっと自分の中にありました。それで、いろいろな経験を積んで、教員に戻ったときにその経験を生徒たちに語れるようになれたらと思いました」

大門さんは、いろいろな道を模索する中で、高校魅力化プロジェクトのことを知る。

「公営塾のマネジメント等を行っている(株)Prima Pinguino（プリマペンギノ）から白糠町のことを紹介され、それで白糠に行こうと決めました」

新たな希望を胸に白糠へ来た矢

先、新型コロナウイルス感染症防止のため、予定していた久遠塾のゼミはすべて中止、休塾となってしまった。

「井上政史塾長から『つらいことも嫌なことも全部おもしろいと思いなさい、人生っておもしろいんだぞ』って言われて。それでいろいろと前向きに考えるようになりました」

休塾の間、学校へ登校もできず、不安に駆られている高校生を元気にさせたい、との思いから、これまで塾のゼミで行ってきた「白糠の仕事人」の延長となる「白糠の仕事人 on Instagram（インスタグラム）」を始める。「白糠の仕事人Instagram」は、町で暮らし、町で働く人たちが、コロナ禍でもどのような仕事や取り組みをしているのかを写真とともに紹介するというもので、大門さんが企画した。

「コロナで誰もが不安な毎日を送っていたと思いますが、そのような中でも、何かできることはないかと考えました。この企画が高校生だけではなく、町民の皆さんにも喜んでもらえたらうれしいです。私もこの仕事を通して、町民の皆さんと交流できることがとても楽しいです。もっとたくさんの人と話をさせていただいて、白糠のことを知りたいなと思います」

久遠には「いつまでも続くこと」という意味がある。Instagramには、コロナで先が見えない状況の中でも誰かを元気にし、勇気づけたいと思う人たちが参加している。こうした人々の思いは、いつまでも続いていくに違いない。なぜなら、みんなの明るい未来を願っている人が久遠塾にいるのだから。

# 大門桃

だいもん もも

1989年4月6日生まれ。札幌市出身。北海学園大学卒業後、札幌市や苫小牧市などの高校で非常勤講師や常勤講師として国語科を担当する。趣味は探している最中。英語を習いたい。両親、妹との4人家族。



「町民の皆さんと交流できることがとても楽しいです」



「白糠の仕事人 on Instagram」用の写真を撮影する大門さん（左）